

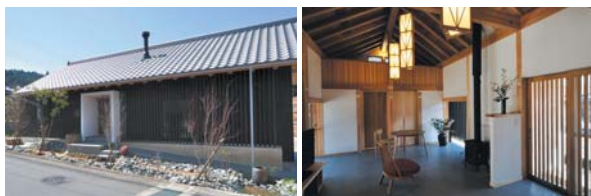
設計・施工・製材のネットワークづくりで吉野材の需要を伸ばす

阪口製材所 奈良県吉野郡吉野町

奈良県中南部の吉野川上流地域を中心に行われている“吉野林業”は、高級な吉野杉の生産で全国的に知られ、室町時代からの植林の歴史を持つ日本最古の林産地とされる。しかし、高級材ニーズの低下や安価な集成材の台頭などにより取り巻く環境が年々悪化、1980年に約378億円（全国2位）だった奈良県の生産林業所得は、08年には約30億円（同27位）にまで落ち込んでいる。

そうした中、製材業の古い体質を改革し、住まい手目線の取組みを展開して吉野材の売上を伸ばしているのが、1946年創業の『阪口製材所』だ。

阪口浩司社長（62才）は、問屋や流通だけを見て木材を粗製乱造し、エンドユーザーである住まい手のことを考えていなかった過去のことを、「お客さん間違いをしていた」と振り返る。「住まい手の幸せのために」との思いから97年に方針転換、問屋を通さず直接工務店と取引することで流通コストを下げ、安価で良質な吉野材が住まい手に届く仕組みづくりを開始した。



杉・ヒノキ・ケヤキなど11種の吉野材をふんだんに使い、五感で木の空間を味わえる『吉野サロン』（左上・右上）



常時数万本の木材を揃える五條事業所（左下）

「林業再生のために山から出材される立木を丸ごと余すことなく使いきる」という信念のもと、まず大量の木材を買い付け、注文に即応できるよう貯蔵。現在吉野と五條に合わせて1万坪の貯木場を持ち、常時数万本以上の木材を保有している。

業界の常識では考えられない大量の在庫だが、「直接木を見たい」「即時かつ継続的に木材を入手したい」という顧客の要望に応えることで、全国の建築家や工務店、および木造住宅に興味を持つ一般人の間で口コミで評判になっていった。

さらに2000年には接着剤を使う集成材製造を

中止し、天然無垢材の製材のみに特化した。

同じころ長男の阪口勝行専務（36才）が入社。東京の大学を卒業後他社に就職し、家業を継ぐつもりはなかったというが、父親が取り組む住まい手目線の改革に共感を覚え帰郷したのだという。

勝行さんは、業界にしがらみのない立場から若い感覚の新しいアイデアを次々と打ち出していった。ここ数年力を入れて取り組んでいるのが、施主のために汗をかける建築家・工務店・専門業者の“汗かき集団”ネットワークである『ひとときネット』の活動だ。建築業界全体に仕事が回るように、良質な木造住宅づくりに取り組む関係者を紹介する雑誌を作成するなど、全体の「つなぎ役」としての自分の役割を勝行さんは重視している。



吉野スタイル CUBE 外観



大幅なコストダウンを実現した『吉野CUBE』（左上・右上）

勝行さんが世話人を担当した『スローハウスII』などの雑誌（左下）

2010年には情報発信基地として『吉野サロン』を本社に建設し、多くの見学客を受け入れている。また同年、ひとときネットのプロジェクトとして『吉野CUBE』という住宅を販売開始。吉野杉・桧造り2階建て（延床約24坪）の基本モデルを1,300万円（設計料・消費税含む）という低価格で提供し、吉野材の家づくりを身近なものとして提案した。すでに数軒を販売・建設済みだという。

「自分だけ儲かればという考え方では業界に未来はない」と断言する阪口社長と勝行さん。吉野材の再生への挑戦はこれからも続く。

（吉村 謙一）



阪口製材所

〒639-3114 奈良県吉野郡吉野町

大字丹字 113

TEL: 0746-32-2310 FAX: 0746-32-0231

URL: <http://wood-sakaguchi.jp/>